

## クリスマス礼拝とバプテスマ（洗礼）

山里 将之

みなさん、こんにちは！

お久しぶりです。貝塚聖書教会の山里将之です。

この記事を投稿しています 12月22日（日）の今日は、クリスマス礼拝の主日。イエス様のお生まれを記念するクリスマスを感じる礼拝でした。感謝な事に、貝塚聖書教会ではこの日、3名の方々にバプテスマ（洗礼）を執行致しました。



バプテスマは、新しいいのち、新しい人生の始まりという事で、よく誕生日にたとえられることがあります。神様を抜きに歩んできた人生を悔い改めて、神様の家族となり、神様の子どもとされ、神様とともに生きることを喜びとする人生の始まり。バプテスマにはそういった意味があります。肉体の誕生日があるのと同じように、霊的な誕生日がある。神様の霊を頂いてイエス様を救い主として受け入れ、信じ、告白する時、私たちは新しい誕生日を迎えるのです。バプテスマはそのしるしであり、証しです。



もともと「水に浸す」という意味のバプテスマ。実際、イエス様がバプテスマのヨハネから受けたバプテスマは、今で言う浸礼（全浸礼）、ヨルダン川の川水にざびんと浸かる、浸される、という儀式でした。そういう意味では、「洗」礼というよりはまさに「浸」礼、それも全身を浸す全浸礼がもともとのスタイル。今でも浸礼を大事にしている教派があり、バプテストという群れがその代表ですね。私たちの教会では、原則、全浸礼を勧めています。滴礼による洗礼も認めています。



3名のうちお一人が滴礼、残りの二人が浸礼（全浸礼）。イエス様のお生まれを記念するクリスマスの主日に、新たな誕生日、霊的な誕生日を迎えた3名が神様の子どもとされた喜びをともにさせて頂きました。今年のクリスマスの、何よりのプレゼントだと実感します！ 皆様の教会でも、クリスマスの喜びが満ちますように・・・。



<sup>16</sup> イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると見よ、天が開け、神の御霊が鳩のようにご自分の上に降って来られるのをご覧になった。<sup>17</sup> そして、見よ、天から声があり、こう告げた。「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。」

マタイの福音書 3章 16-17節、聖書 新改訳 2017©2017 新日本聖書刊行会